



千葉県防大 父母会 だより

【発行】
千葉県防衛大学校
学生父母会
【お問い合わせ・連絡先】
nda_pa_chiba@googlegroups.com

令和3年度を振り返って

「会長 平良裕治 挨拶」

「防衛大学校つてすーいー！こーに入学したいな〜制服かつーいいし〜」
「そうだよな、ナショナルディフェンスアカデミーなんてかつこよすぎるぞ！入学出来たら最高だな」

息子が中学3年生の時、千葉の地本から防大に親子見学に行くツアーにて、防大の食堂で、かつカレーライスを食べながらの息子との会話です。内心入校は無理だろうと思っていました、数年後、高等工科大学から奇跡的に防大に合格でき、息子上に私が喜びました。

それから2年間は、遠泳やカッター、開校祭と親も見学できる防大研修ツアーなど父母会を通して、まさに、漫画あおざくらのような子供の青春を見守ることができました。

しかし、「コロナによって3年目からは父母会の行事もほぼできなくなり、また、それぞれの学生にとっては本当に過酷な体験であったと思います。それでも、この春無事卒業を迎えられたことはとても感慨深く、それぞれの道をどうか頑張つて頂きたいと心から願います。

最後に、4年間父母会の皆様と行事や小旅行で、ささやかにも楽しむ事ができました。

本当に有難う御座いました。



令和3年度忘年会

「自衛隊千葉地方協力本部長 1等海佐 大山 康倫 挨拶」

第66期生の防衛大学校卒業おめでとうございます。同期と共に厳しい4年間を乗り越えて逞しく成長をされ、そして新たな一歩を踏み出された卒業生に心より敬意を表します。卒業生におかれては、「コロナ禍」という非日常のなかで、防大生活の半分を過ごし、不自由な思いをされたものとお察ししますが、一方危機管理という観点からは非常に貴重な経験をされたのだと思います。

これからの幹部自衛官としての勤務において、この経験がプラスになる場面は必ずやあるはずで、す。11年前には東日本大震災を、そして今、「コロナ禍」という未曾有の事態を経験した卒業生のような若人たちだからこそ創れる未来があるのだと信じます。

日本と言う国に生まれ、この国で育ち、そして「この国を守る」ために、自衛官として、「ご息ご息女と共に、はたらく」ことができ、すことを光榮に思います。

結びに、卒業生の輝かしい未来と千葉県防衛大学校学生父母会の皆様の御多幸を、そして明るく希望に満ちた日本の未来を切に祈念申し上げます。



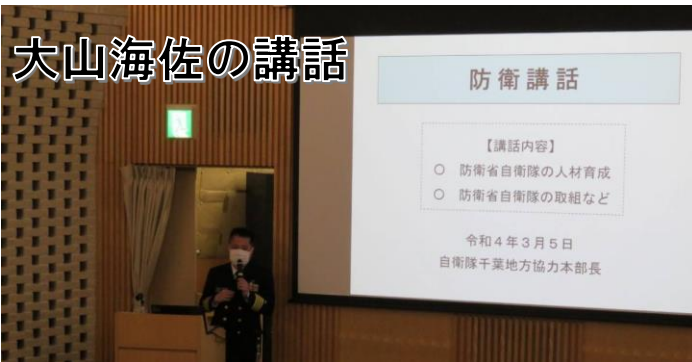
大山海佐と平良会長

防衛講話会 卒業記念品贈呈式



◇令和4年3月5日 防衛講話会 および
66期皆様へ卒業記念品贈呈が行われました

大山海佐の講話



記念品を受取られた66期の皆様



熱心に聴き入る 父母会の皆様



「編集後記」
66期の皆様、ご卒業おめでとう
ございます。
卒業前の多忙な中、父母会だよりへ
のご協力、誠に有難うございました。
コロナ禍の父母会活動は、恒例だった行
事がなくなってしまう、度重なる蔓延防
止が適用される中、会うこともままなら
ず、父母会の運営も大変でした。そのよ
うな状況下でも父母会を先導してくだ
さったのは、66期役員皆様の団結力で
あったと思います。役員の仕事も助け合
われ、出来る人が出来る時に出来る事
を行うという姿勢、67期以降も引き継
いでいけたらと思います。
大変お世話になりました。
66期皆様のご活躍を心から祈念致して
おります。

第41号父母会だより制作 広報

父母会行事のお知らせ

◇茶話会 69期・70期対象
2022.4月24日(日)

◇定期総会
2022.5月14日(土)

卒業所感文特集

～ご卒業おめでとうございます～

〔安藤 優吾 学生〕

- ◆ 412 小隊
- ◆ 陸上 要員
- ◆ ラグビー 部



※中央大隊長が安藤学生

卒業が目前に迫り、幹部候補生学校への入校、そしてその先の指揮官としての任務がうつすらとだが感じられるようになってきた。ここでの生活を振り返ってみると感慨深いものがあるが、その中でも特に考え、学び、自分の糧になったことを書こうと思う。

中学校卒業後、一年間は一般の高校に通ったが中退して陸自の高等工科学校へ入校した。そこは陸曹を育成するための学校ではあるが、もともと防衛大学校へ行こうと考えていたため現場の隊員とそうでない隊員の違いについて考える機会は多々あった。指揮官とはどうあるべきか、最適な指揮とは良好な統御とは何か、そういったことを自分の中で何度も反芻した。幸いにも防大生活の4年間で指揮をする機会は幾度もあり、考えて実践し、そして反省をするといった経験を積むことができた。そういった意味で防衛大学校はその理念に根ざした教育機関であると感じた。

結論から言うと、防大での4年間の生活では最適な指揮とは何かという問いに対して答えは出なかった。しかし、実際の戦争で王道はあっても絶対はないように、部隊の指揮においても凝り固まった考えを持たずに臨機且つ柔軟に執ることが大切であることを強く感じた。そしてそのやり方は、知識だけではあるがここ防衛大学校で学ぶことができたと思う。幹部候補生学校に行っているから、それを知恵に昇華し将来の任務に役立てられるよう、全力を尽くしていきたい。

〔大村 巧 学生〕

- ◆ 113 小隊
- ◆ 航空 要員
- ◆ サッカー 部



※右側が大村学生

鬼将で有名な高校時代の恩師マルコス先生に三年間みっちり鍛えられた私は、正直防大を舐めていた。初点呼を終えて部屋に帰るや否や、携帯のマップで自分の現在地を確かめた。

「よかった、ちゃんと日本にいた。」

こうして始まった大学生生活は、振り返れば波乱万丈だった。私は一学年後期に服務事故を起こして停学二日の処分を受けた。

これによって指導官からの信頼は落ち、今後の生活はお先真っ暗という感じだった。しかし、ポジティブな性格が幸いし、それからでも前向きな生活を送ることが出来た。

時を経て現在、運よく大隊学生長の職を任せられることとなり、どん底からやってきた学生長という北斗の拳チックな異名を携えて、勤務している。

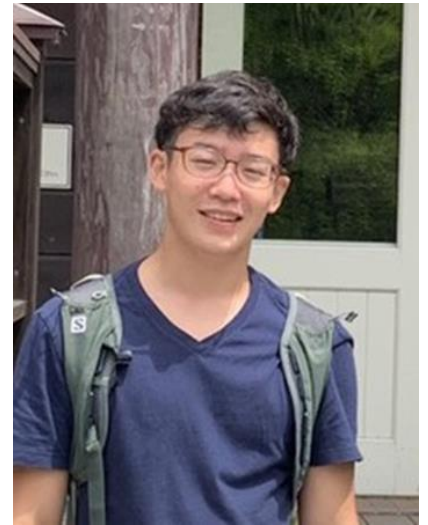
いつも家へ帰ると温かく迎えてくれる家族に改めて感謝すると共に、卒業までの残り僅かな期間を向上心持って過ごし、波乱万丈なこの四年間をしっかりと締めくくりたい。

卒業所感文特集

～ご卒業おめでとうございます～

〔河井 玲 学生〕

- ◆ 113 小隊
- ◆ 海上 要員
- ◆ 水泳部 競泳パート 部



卒業の時期というものは、いざ来てみると実感が湧かないものでした。

防衛大学の学生でなければ経験することができない充実した経験が四年間を埋め尽くしています。逆に、濃い経験が日常化してしまい、何が印象に残ったかを聞かれても答えるのが難しいなと感じています。

この学校を卒業する時にたとえ気づかなくとも、入学時よりははるかに学び、成長し、体得した見えないものが私の中にあると確信しています。

支援していただいた多くの方の期待にも応えられるよう、卒業後も努めて参ります。

四年間、ありがとうございました。

これからも、よろしくお願いします。

〔木村 海斗 学生〕

- ◆ 242 小隊
- ◆ 海上 要員
- ◆ ウェイトリフティング部



※前列左側が木村学生

今 振り返ってみると防衛大学で過ごした日々は、とても短く、充実していたと感じます。

入校直後は、カルチャーショックが大きく、この生活に耐えられるのか？と疑問に思ったことも多々ありました。

しかしながら、学生舎での生活や訓練、競技会を通して心身ともに成長をしたと思います。

防衛大学の一番良い点は 様々な価値観を持つ学生と交流を深めることができる点だと思っています。

下級生から上級生まで多くの人と関わる事ができたので、私の性格や価値観を大きく成長させることができました。

私はこの学校で生活を共にしてきた仲間たちを誇りに思いますし、感謝をしてもしきれません。

素晴らしい仲間たちと大学 4 年間を共にできたことは私の一番の思い出です。

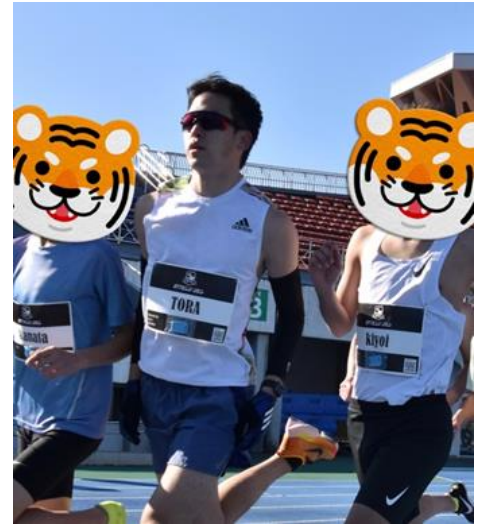
卒業後も防衛大学での生活を忘れずに日々精進していきたいと思っています。

卒業所感文特集

～ご卒業おめでとうございます～

〔小林 虎の介 学生〕

- ◆ 142 小隊
- ◆ 航空 要員
- ◆ 陸上競技部



望まずに始まった防衛大学校での生活もあつという間に過ぎ卒業を迎えることができました。

この四年間を振り返ると最後の二年間はコロナウィルスの影響で学生生活や校友会活動など全てが変わりました。

特別外出など今まで当たり前に行ってきたことができなくなり、半ば軟禁のような生活になるなど苦しい日々でした。その中でも何とか行うことのできた夏期定期訓練において行われる富士川滑空場での実習は良い経験になりました。特に司令部と現場の板挟みに遭い、その調整に奔走した経験は今後の人生にきつと役に立つと信じています。

たくさんの人と出会い、様々なタイプの指導官や助教と出会いました。こんな人みたいにはなりたくないと思わせるような人もいましたが、様々なことを学び目指すべき姿を見ることができたことが防衛大学校で得ることのできた一番の私の財産だと思えます。

ここで得た経験を胸に次のステージでも頑張りたいと思います。

〔杉田 夏帆 学生〕

- ◆ 433 小隊
- ◆ 航空 要員
- ◆ 吹奏楽部



1学年時、1日ですえも長いと感じていた防衛大学校の生活も4年が過ぎ、とうとう卒業を迎えました。

防衛大学校で過ごした時間は、今まで経験したことがないことばかりで、大変なことや辛いこともたくさんあり、休日や長期休暇が終わる度に学校に帰ることが苦痛でした。しかし、同じ思いを持つ同期と助け合い、困難を乗り越え、ここまで来ることができました。

防衛大学校での濃い生活を共に過ごした同期は、これからの人生においても大切なものになると思います。

卒業後も、人との繋がりを大切に、邁進したいと思います。

卒業所感文特集

～ご卒業おめでとうございます～

〔出戸 孝洋 学生〕

- ◆ 221 小隊
- ◆ 陸上 要員
- ◆ 卓球部



私が経験した5年間を振り返ってみると不思議なことに、長かったようにも、あっという間に過ぎたようにも感じる。防衛大学校入校前に抱いていたイメージと実態とで異なっていた部分はあった。しかし、自衛隊に与えられた任務を遂行したいという憧れは今でも変わらない。

防大で学んだことは多くあるが、その中でも「人間関係」について得られたものは特に大きい。幹部自衛官としてリーダーシップを発揮するためには自分を発信していく勇氣が必要である。しかし自衛隊の基礎を成す共同・集団生活において重要なのは客観的に自分を見ることである。自分の言動や感情のコントロールを如何なる状況でもできるという人間は信用に値する。

よく有名なリーダーや経営者、社長を「○○タイプ」と一言で紹介する本があるが、バランスがとれていて人間として引き出しの多い人間がより多くの人を感服させることができる。任官し、様々な部隊を率いる道を進んでいくが、人間として一生学び続けていきたい。

〔平良 公一 学生〕

- ◆ 342 小隊
- ◆ 陸上 要員
- ◆ 応援団リーダー一部



※右側が平良学生

高等工科大学を卒業し 防衛大学校に入学した4年前から、気が付けばもう卒業の時を迎えた。

高校と防大は同じ自衛隊の組織ではあるが、文化や規則は大きく異なるため、とても刺激的な毎日を経験することが出来た。

防大では「自分軸を持つことの大切さ」を学んだ。幹部自衛官は部下を指揮する立場にあるため、有事の際は自らの意思が任務の達成に大きく関わってくる。

防大は一般の大学と比べると、制約等も多く大変なように思えるが、防大に來なければ得られない知識、技術を学べたことは私にとってかけがえのない財産である。

また、今後の人生においても、易きに流されず自分自身の信念を持ち続け生活していきたい。

卒業所感文特集

～ご卒業おめでとうございます～

〔藤田 隆宏 学生〕

- ◆ 212 小隊
- ◆ 陸上 要員
- ◆ ワンダーフォーゲル部



喉元過ぎれば熱さを忘れるとは言ったもので、入校した後の苦しかったはずの記憶は、今では同期との懐かしい思い出に感じられます。

防衛大学校は心身を鍛えるには絶好の環境であり、自分自身においても多方面で成長が感じられました。決して一般大学では得ることの出来ない濃密な学生生活を送ることができ、この素晴らしい環境を与えてくれた学校と、ご支援いただいた多くの方々々に感謝しています。

陸海空、そして学年を越えた絆は、間違いなく一生ものであると確信しています。

別れは寂しいものですが、四年間で学んだ全てを糧に、防大卒のプライドを持って任官します。

〔山本 祥太郎 学生〕

- ◆ 442 小隊
- ◆ 陸上 要員
- ◆ 合気道部



※前列左側が山本学生

時が経つのは早いもので、私の防大生活もいよいよ終わりを迎えようとしています。

卒業を前に振り返ってみると、この4年間はこれまでの生活とは大きくかけ離れたもので、毎日が学びの連続でした。

今から約4年前、新しい生活に期待と不安を抱きながら防大の門をくぐった着校日のことは今でも鮮明に覚えています。右も左もわからない状態から防大生としての毎日が始まりました。それから日々は成長とともに時間は瞬く間に過ぎて行きました。

防衛大学校では、学生舎生活、学科、訓練、校友会、競技会、課外活動などの他の学校では決して味わうことの出来ない貴重な経験をすることが出来ました。書ききれないほど多くの経験の中で大きな充実感、達成感を得ることができました。

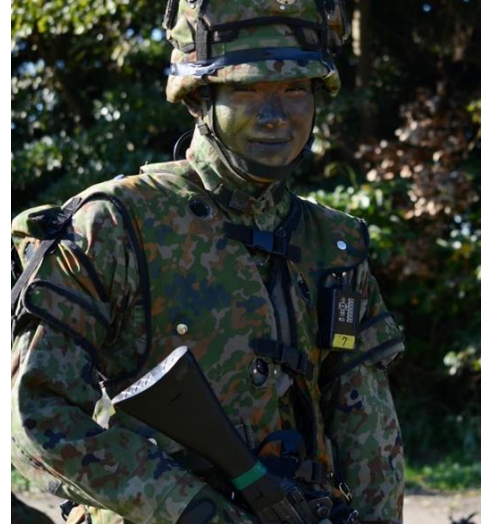
これからの人生にも様々な困難が立ちちはだかるだろうと思いますが、ここで培った経験をもとに、さらなる高みを目指して日々邁進していく所存です。

卒業所感文特集

～ご卒業おめでとうございます～

〔山本 大晴 学生〕

- ◆ 312 小隊
- ◆ 航空 要員
- ◆ 山岳部



選択の連続である人生の中で、異なる選択をしていればと思うような行動をして後悔することが往々にしてある。一方で、良い選択をしたとは自分で気づけないことが多い。そんな中で、防大への進路というのは結果としてよい選択であったとこの生活を終えるにあたりしみじみと感じる。

大学教育に加えて、学生舎での多様で濃い人間関係や校友会での組織運営の経験などが自らに蓄積され無形の財産となった。4学年になり部屋の1学年の様子を見てみると時折もどかしい感情を抱くときがある。そんなこともできない、わからないのかなどと呆れつつも、4年前は自分もこうだったのかと我に返るのである。

大人と子供の違いを説明はできないが、防大を卒業するにあたり自分が子供の段階を卒業し、大人の段階をやっとスタートできたように感じる。

ここまで自分の成長を支えてくれた多くの方々に感謝をしつつ、防大で培った財産を生かしつつ今後に繋げていこうと思う。

〔渡辺 怜 学生〕

- ◆ 443 小隊
- ◆ 陸上 要員
- ◆ ボート部



私の人生が最も変わったのは間違いなく防大入校だと思う。今思えばこんなに素晴らしい学校はない。

ある程度の規律と、衣食住を提供される代わりに自衛隊のため国のために勉強をする、ということとは、学問への少々の興味と、自立しているんだという自尊心を満たしてくれた。

また、保護者からの金銭的、身体的、精神的自由を手に入れられるというのは、他の学校ではできないことだ。

私は、その自由と規律の中で様々な人に出会い、様々なことを考え、実行し、成功もしたし、失敗もしてきた。夜通し真面目な話もしましたし、同期と飲みに行ってきたら面白い話で盛り上がったたり、恋愛トークで笑いあったりもした。カッター銅クルーは今でも嬉しいし、授業をサボってバレたのも今ではいい笑い話である。

そして、それらの経験は、すべて今の自分を形作っているのである。

ありがとう防衛大学校！